



きよまち議会だより

No.81 2026.2.13 12月会議の情報をお伝えします 発行／長野県木曾町議会



よろしくお願ひします
12人で木曾町議会がスタート!



木曾町議会
ホームページ

議論深め 責任ある将来像示す



議長 大目 富美雄

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで新しい年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年11月に行われた町議会議員選挙を経て、初議会において議長の大役を仰せつかりました。身に余る光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

今期の議会は、定数12名のうち半数が新人議員という新たな体制でのスタートとなりました。ベテラン議員の経験と新人議員の新鮮な視点を生かし、これまで以上に活発で開かれた議会運営に努めてまいります。

当町は、人口減少、とりわけ少子化という大きな課題に直面しています。こうした課題は、町の将来を左右する重要な問題であり、議会として責任ある議論を重ね、町民の皆さまに希望を持っていただける将来像を示していくことが求められています。

私は、公平・公正な議会運営を基本に、議員一人ひとりの意見を尊重しながら、円滑で実りある議論の場となるよう全力を尽くしてまいります。また、町民の皆さまに信頼される議会を目指し、説明責任の徹底と情報発信の充実にも取り組んでまいります。

重点的に取り組む5つの項目

そのため、今期は次の5点を重点項目として取り組んでまいります。

1. 議会改革の推進
子どもたちや消防団、地域協議会などさまざまな立場の方々との意見交換を通じて、議会をより身近で開かれた存在としていきます。
2. 委員会活動の強化
調査・研究を一層充実させ、町の課題解決に向けた政策提言につなげてまいります。
3. 議会広報の充実
『きそまち議会だより』を中心に、分かりやすく伝わる情報発信に努めます。
4. 議長交際費の公開
透明性の向上を図り、支出内容や目的について丁寧な説明を行います。
5. 研修・交流の推進
先進地視察や姉妹友好自治体との交流を通じて得た知見を、町政に生かしてまいります。

結びにあたって

町の未来を見据え、議会が主体性と責任を持って行動することが重要です。町民の皆さまの声に真摯に耳を傾けながら、より信頼される議会づくりに努め、木曾町の発展に誠実に取り組んでまいります。

新しい年が当町にとって無災害で実り多い年となりますこと、そして町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のあいさついたします。



12月会議の様子

木曾町長選挙・木曾町議会議員一般選挙

選挙結果

11月16日執行の木曾町長選挙および木曾町議会議員一般選挙の選挙結果をお知らせします。なお、木曾町長選挙は立候補者が1名のため無投票となりました。

当選された方々には、11月17日に木曾町選挙管理委員会委員長より当選証書が付与されました。任期は令和7年11月27日から令和11年11月26日までの4年間です。



当選証書を受け取る議員

木曾町長選挙

■ 立候補者 ■

かとう まさかず
加藤 真和 (無投票)

木曾町議会議員一般選挙

- 有権者数：8,537人 男：4,143人 女：4,394人
- 投票者数：5,801人 男：2,803人 女：2,998人
- 《有効投票数》5,751 《無効投票数》50
- 投票率：67.95% 男：67.66% 女：68.23%

■ 候補者別得票数 (定員12名) ■ ※得票順

おおめ	ふみお	934 票	とちもと	ちから	335 票
大 目	富美雄		栩 本	力	
ちごの	みつくに	739 票	てらうち	けん	312 票
児 野	光九仁		寺 内	健	
ひらい	たけひら	677 票	ふじた	まさひろ	258 票
平 井	武 平		藤 田	昌 弘	
しもじょう	ひろゆき	488 票	まつい	じゅんいち	214 票
下 條	広 行		松 井	淳 一	
しもじま	さとみ	377 票	てつか	ももか	188 票
下 島	里 美		手 塚	百 花	
そやの	たかお	373 票	はっとり	やすひで	136 票
征矢野	隆 夫		服 部	泰 英	
めぐる	みどり	372 票			
目 黒	碧				
はらだ	てつや	348 票			
原 田	徹 哉				

(法定得票数) 119.812 票

木曾町議会構成



議長
大目富美雄



副議長
児野光九仁



総務経済常任委員会



委員長
原田 徹哉

副委員長
松井 淳一

委員
下條 広行
征矢野隆夫
藤田 昌弘
大目富美雄

社会文教常任委員会



委員長
下島 里美

副委員長
平井 武平

委員
目黒 碧
寺内 健
栩本 力
児野光九仁

議会運営委員会



委員長
栩本 力

副委員長
松井 淳一

委員
平井 武平
下條 広行
下島 里美
原田 徹哉

議会広報特別委員会



委員長
目黒 碧

副委員長
下條 広行

委員
征矢野隆夫
原田 徹哉
寺内 健
児野光九仁

木曾広域連合議会議員

下島 里美
原田 徹哉
松井 淳一
栩本 力
児野光九仁
大目富美雄

松塩筑木曾老人福祉施設組合議会議員

平井 武平



12月会議

12月会議（通年議会）は、12月12日から18日までの7日間にわたり開催されました。会期中には、11人の議員による一般質問が行われたほか、町から提案のあった補正予算、条例改正、副町長や教育長の選任等25件の審議が行われ、全ての案件が原案通り可決されました。

12月会議 (25件)			
条 例	8	規約変更	1
補正予算	5	同 意	4
選 挙	1	発 議	3
陳 情	2	委員選任	1

12月補正予算

2億4349万円追加

議案の内容

歳入歳出にそれぞれ2億4349万円を追加し、総額119億4146万円とするもの。主な内容は物価高騰対策である。

物価高騰対策

今回の補正予算では、長引く物価高騰への対策として、重点支援地方交付金を活用した暮らしの支援と、子育て支援に重点を置いた予算が組まれました。

重点支援地方交付金による生活支援

プレミアム付商品券の発行…1億347万円

緊急地域経済対策事業として、地域の経済活性化と家計支援のため、1万円分の商品券を5千円で販売する商品券を発行します。町民1人につき2冊まで購入可能。また、町内の学生（林業大学校・木曾看護専門学校）にも1冊配布し、地域での消費を促します。発行補助に1億300万円、郵送料として47万円を計上。



商品券発行を知らせるチラシ

病院・福祉・学校等への米の配布…300万円

物価高騰重点支援事業として、米価格の高騰を受け、町内の病院や介護・福祉施設、高校等に支援するため、計3・3トンの米を配布し、施設利用者の食生活を守ります。

福祉商品券の給付…630万円

物価高騰の影響を受けた高齢者世帯、重度障害者世帯、ひとり親世帯、重度要介護者世帯の低所得世帯および生活保護受給世帯の600世帯に対し、1万円分の商品券を配布し、生活の負担を軽減します。

小中学校の給食経費…120万円

お米の価格が前年度より大幅に上昇したことに伴う予算不足分を町が補填し、給食の質を維持します。

*小中学校の給食費軽減…歳入▲399万円

今後徴収予定の1月・2月の2か月分の給食費を徴収しないため、歳入が減少します。



開田小の給食準備の様子

子育て応援手当事業

子育て応援特別手当の給付…2000万円

子育て世帯の経済的負担を和らげるため、対象となるお子さん一人につき2万円を給付します。

木曽福島スキー場の緊急対策

緊急修繕…約1200万円



多くのスキーマーで賑わう木曽福島スキー場

では、第4ペアリフトの平日運休やレストラン白山の営業日削減などを実施し、電気代や人件費をはじめとする経費抑制にも取り組むこととします。

議会の視点

公共施設の老朽化に伴う維持費の増大は、避けて通ることのできない町の課題です。将来世代に過度な負担を先送りしないためにも、単に予算を投入するだけでなく、運営の効率化や施設全体のあり方について、今後事実に基づいた議論を継続していく必要があります。

木曽福島スキー場において、

冬期間の施設運営を維持するための緊急修繕費として約1200万円が計上されました。圧雪車の修繕約88万円、レストラン白山のガス設備修繕が330万円です。

今回の予算投入にあわせ、木曽福島スキー場

条例

木曽町火入れに関する条例の一部を改正する条例

火入れ禁止基準に 林野火災注意報等追加

議案の内容

気象情報の名称変更等に伴い、木曽町の火入れ条例を改正する。従来の「異常乾燥注意報」を「乾燥注意報」や「林野火災に関する注意報」等に改めるもので、令和8年1月1日から施行する。



野焼きの様子

木曽町日義特産物等販売施設条例の一部を改正する条例

日義地区の販売施設を削除

議案の内容

日義地区にある巾販売所および義仲館販売所について、近年の販売施設としての活用実態がないため条例上の施設から削除し、行政財産から普通財産へ変更する。公布の日から施行する。



義仲の里農産物販売所

規約変更

木曽広域連合規約の変更

広域連合に長野県が加入し体制強化

議案の内容

複雑化する地域課題に対応するため、長野県を構成団体に追加して県・町村が一体となった体制を構築する。これに伴い、議員定数や役員任期等の関係規定を整理し、令和8年4月1日から施行する。



木曽広域連合事務局

同意

副町長の選任の同意

木村恭一氏（福島）



内容

副町長に木村恭一氏を選任するもの。任期は令和7年12月16日から令和11年12月15日までの4年間。

教育長の任命の同意

越孝弘氏（福島）



内容

教育長に越孝弘氏を任命するもの。任期は令和7年12月21日から令和8年12月20日までの1年間。

監査委員の選任の同意

藤田昌弘氏（新開）



内容

議会選出の監査委員に藤田昌弘氏を選任するもの。任期は令和7年12月12日から令和11年11月26日までの約4年間。

教育委員会委員の任命の同意

青樹久雄氏（開田高原）



内容

教育委員会委員に青樹久雄氏を選任するもの。任期は令和7年12月21日から令和11年12月20日までの4年間。

選挙

選挙管理委員会委員および補充員

任期は令和7年12月16日から令和11年12月15日までの4年間。

委員（4名）

安田利夫氏（福島）



田代幸子氏（三岳）



上垣外浩之氏（日義）



越正志氏（開田高原）



補充員（4名）

吉田隆幸氏（開田高原）
中村千恵美氏（三岳）
澤口久美子氏（福島）
磯尾三輝氏（日義）

陳情

診療報酬・介護報酬および障害福祉サービス等報酬10%以上の引き上げを求める陳情書

陳情の内容

物価高騰に対応し医療・介護従事者の処遇改善を図るため、各報酬を10%以上引き上げること、および全額公費による賃上げ支援策の実行を求めるもの。

提出者

長野県医療労働組合連合会
会長 小林 吟子

付託委員会

総務経済常任委員会
審査結果 採択（全会一致）

高額療養費の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める陳情

陳情の内容

重篤な疾患を持つ患者

の家計負担を抑え、必要な医療を保障する

セーフティネットとしての機能を維持するため、上限額の引き上げを行わないよう求めるもの。

提出者

長野県社会保障推進協議会
代表委員 宮沢 裕夫

付託委員会

社会文教常任委員会
審査結果 採択（全会一致）

発議

発議の内容

本曾町議会広報特別委員会の設置について。

目的

議会の審議や活動状況等を住民に周知するため、議会広報「本曾町議会だより」を発行することを目的とする。

委員構成

総務経済常任委員会および社会文教常任委員会から各3名、計6名により構成する。

発議の内容

診療報酬・介護報酬および障害福祉サービス等報酬大幅引上げを求める意見書の提出。

概要

医療・介護現場で働く労働者の賃上げや人員増、物価高騰対策のため、2026年度の報酬改定と合わせた大幅な引上げ改定等の実施を国に求めるもの。

提出先

衆議院議長ほか

発議の内容

高額療養費の自己負担上限額の引上げをしないことを求める意見書の提出。

概要

家計が厳しい状況にある重篤な疾患の患者や家族の負担増を防ぎ、必要な医療を保障するセーフティネットとしての機能を維持するため、上限額の引上げを行わないよう国に求めるもの。

提出先

内閣総理大臣ほか

11人が町政を問う

一般質問通告要旨

一般質問は、町政のあらゆる課題について、町長や教育長、担当課長に対して質問を行う場です。町政のチェックや政策提言など、町政のより良い発展を目的とした、議員の重要な活動の一つです。
 一般質問は、年4回の定例会で行われ、事前に質問内容の通告が必要となっています。議員一人あたりの質問時間は30分で、1問1答方式により質疑応答が行われます。
 この欄には、質問者が事前に提出した通告内容の要旨を掲載しています。

- 下條 広行 議員** P 8
 ・物価高騰に対する支援
 ・循環型林業
- 児野光九仁 議員** P 9
 ・賃貸住宅事情と空き家バンクの活用
- 原田 徹哉 議員** P 9
 ・町長の公約
- 征矢野隆夫 議員** P 10
 ・木の産業づくり
 ・危険木、支障木
- 榎本 力 議員** P 10
 ・木の産業
 ・道の駅の改修
 ・福島郷土館の改修
- 下島 里美 議員** P 11
 ・水道事業の今後
 ・財政調整基金のあり方
 ・高校生への支援

- 平井 武平 議員** P 11
 ・次世代に負の遺産を極力残さない
 ・こどもたちの食と環境を早急に整える
- 寺内 健 議員** P 12
 ・町民主体のまちづくり機能果たしているか
 ・避難所運営
- 目黒 碧 議員** P 12
 ・オーガニック給食
 ・オーガニックビレッジ宣言
 ・食の多様性の取り組み
 ・公共交通
- 松井 淳一 議員** P 13
 ・各課課題解決
 ・町長が描く町の将来像
- 藤田 昌弘 議員** P 13
 ・木曾町DX推進施策の現状

物価高騰に対して 支援考えないか

企画財政課長 プレミアム商品券を活用する



しもじょう ひろゆき
下條 広行



質問者の動画が見られます

問 食料品の物価高騰に対する支援の考えはないか。

企画財政課長 1万円分の福祉商品券の給付を考えている。

企画財政課長 商品券を5千円で販売し、5千円分のプレミアムを追加して1万円使えるプレミアム商品券を1人2冊発行する。長野県林業大学校・信州木曾看護専門学校学生には配布する。また、町内医療・福祉施設・学校等に3・3トンの地元のお米を配布する。

問 利用できる範囲が医療機関に使えると良いと思うが。

企画財政課長 少し検討させていただきたい。

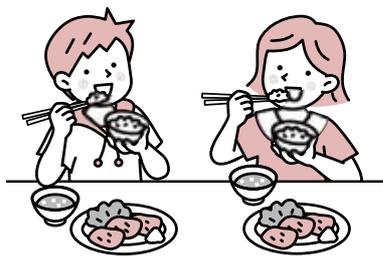
問 商品券の発売時期と使える店舗は。

問 物価高騰による小中学生の保護者の負担を軽減するため、学校給食費等を無料化する考えはないか。

企画財政課長 令和8年1、2月の給食費は無料、町で補てんする。町では修学旅行費、学費なども公費負担している。

問 物価高騰に伴う低所得者世帯、高齢者世帯支援の考えはないか。

問 特に給食費は来年度も継続して進めていただきたい。物価高騰に対する支援について、



町長の考えをお聞きたい。
 町長 公約に挙げた通り小中学校の給食費を全て無償化するというところで予算化する。福祉商品券、プレミアム商品券やお米配布などにも早急に取り組みたい。

移住者増に伴う 賃貸住宅の確保は

町民課長 木造住宅推進協議会と協定結び取り組む



この児野 光九仁



質問者の動画が見られます

問 当町は昨年度、移住者、世帯数が増加している。人口減少が危惧される中、朗報と感

じるが賃貸住宅が少ない。住居の確保についての対策を聞きたい。

町民課長 町が管理している町営住宅等は令和7年4月現在135棟372戸あり、入居率は82・8%となっている。民間の賃貸住宅が複数あることは承知しているが、正確な戸数の把握はされていない。需要に対して供給できる物件が限られており、木材住宅推進協議会と賃貸住宅の整備に関する協定を締結しており、賃貸住宅を整備して住宅事情に対応していく。利用実態のない教員住宅を賃貸住宅として活用する等

の内容となっている。

問 空き家バンク制度があるが、賃貸住宅物件の登録が少ないと感じる。制度をより多くの町民に知ってもらう工夫が必要ではないか。

町民課長 空き家バンクへの登録の呼びかけを行っているが、令和6年度末累計で344件あり、8割程度が売却希望である。税務会計課の協力も得ながら、固定資産税納付通知書に登録を呼びかける文書を同封していたが、

次年度からは内容の見直しをしたい。金融機関、葬祭センター等に関連のチラシを置いてもらうなどもしてきたので更に工夫を重ねていきたい。

問 近隣地域への住民の流出を止めるにも住

まいの確保は喫緊の課題と感じる。空き家バンクの活用について、町の今後の期待を伺いたい。

町民課長 これまでの取り組みを継続していくとともに、関係機関等の提案も取り入れ、移住者の確保、空き家対策の活用に一層の取り組みを進めていきたい。



木曽病院維持の 取り組みは

町長 木曽郡全体で、国・県に働きかける



この原田 徹哉



質問者の動画が見られます

問 「木曽町をあきらめない」の真意は。

町長 町の中の不安、停滞感を感じている。その原因の一つとしてあきらめの部分があると考え、トライ&エラー（試行錯誤）が大切だと思いキャッチコピー的に使っている。

問 公約の移動スーパリーの具体的な運営形態は。

町長 困っている人がいるので助けたいという内容についてはまだ精査できていないが、必ず実行する。

問 安心して暮らし続けるため木曽病院維持に向けた取り組みの具体案は。

村で県に働きかけていかなければならない。

側面からのサポートもしっかりやっていく。

問 今後の財政状況を鑑み、ハード事業からソフト事業にシフトしていくと理解している。観光経済活性化、歴史街道文化館などの具体的な構想は。

町長 町にとって歴史文化は非常に大切な資源であり、疎かにはできない。子どもたちに対して郷土文化、歴史を学び熟成する場所を作りたい。分散している歴史資料を1か所にまとめて次の世代に引き継がなければならぬと思っています。

問 子どもが安心して遊べる公園整備とは、新しい公園を整備するのか、既存の公園を整

備し充実させるのか。

町長 子育て世代の方から公園が足りないという要望がある。交通事故が起きない安全な芝生広場を作る。全世代、観光客ものんびりできる場所にしたい。木曽福島駅前のSL公園を芝生公園にしたいと思っている。木曽馬の里、義仲館、太陽の丘公園の芝生をきれいに

して、遊べる場所を作ることを徐々に進めたい。



加藤町長のリーフレット

木の産業づくり事業への要望があるが



そやの たかお
征矢野 隆夫



質問者の動画が見られます

建設農林課長 当課の木の産業づくり推進室へ相談を

問 カラマツ材活用の循環型林業が軌道に乗るのはいつか。

建設農林課長 本年9月より2haの皆伐と地ごしらえを完了。次年度以降は再造林植栽、下刈りを予定。順次新開、三岳地区へ計画を進める。令和8年度は把之沢の団地15haを計画している。

問 産学官によるドローンとAIを用いた森林地籍調査の内容は。

建設農林課長 信州大学が開発したもので、ドローンにより高精度撮影を行い、AIによる画像解析から林層区分を判別し、調査結果に基づいて境界を確定させる手法である。成果を活用して国土調査法に基づく地籍調査事業へ結びつけたい。

問 今後、民有林全体の地籍調査まで進めるか。

建設農林課長 山林については森林の集約化モデル地域実証事業を活用して、境界明確化事業に合わせて地籍調査へ結びつける事業を進めている。今後も着実に進めていく。

問 森林総合管理士（フォレスト）などの専門家の登用、育成をどう考えるか。

建設農林課長 そういった人材の必要性は町としても感じている。実事業を担う林業事業体の中で、育成していくべきと考える。地域振興局林務課、木曾森林管理署などと連携して森林林業の課題に取り組む。

危険木、支障木

問 危険木、支障木の伐採要望がある。基本は地権者だが、害獣を誘引する柿、栗等の個人木について、伐採できない場合、町でできる方策はないか。

建設農林課長 害獣増加による人身被害が懸念されるので、伐採対象条件を整備し、申請があったものを集中的に伐採する方向で補助制度なども調査をしながら、次年度の当初予算へ計上を検討する。



原木乾燥土場

木の産業・道の駅改修 継続的に実施するか



とちもと ちから
榎本 力



質問者の動画が見られます

町長 道の駅は高齢化の中益々重要な施設

問 黒川橋詰に木材置場があるが、木材の搬入が少なくなかないか。

建設農林課長 木曾森林組合と「土場使用賃貸契約」を締結している。周辺伐採の木材はその場所にトレーラーが入れるので、活用していない。今後の事業予定場所でも山に置けない場所があり、搬入量は増加の見込みだ。

問 用材の搬入で市売り計画はないか。

建設農林課長 搬入材の仕訳と市場機能で民有林の材を活用したい。

問 長期施業委託計画を4地域から拡大できないか。

建設農林課長 当面カラマツを中心に行うが、今後森林所有者の理解と協力をいただき事業展開を図る。

問 目的に森林更新もあるが、造林計画も立てられているか。

建設農林課長 主伐再造林を進める。保育に係る経費は、必要経費として販売代金から控除する。造林は国・県・町の補助事業を活用して所有者負担が生じないように努める。

問 森林環境譲与税の活用で行われるが、資金確保のため基金の造成は考えていないか。

企画財政課長 造林の状況を見て、資金投入の必要があれば目的基



木の産業木材

道の駅

問 道の駅の改修はそれぞれの指定管理者から要望されている。どのように進めるか。

総務課長 改修計画等を作成して進める。

町長 高齢者の皆さんの生きがいにつながり、コミュニティーの存続でも重要だ。

問 中心市街地の活性について町長の考えは。

町長 空き家や空き店舗が増加している。市街地を磨き上げて存続に力を注ぎたい。有名無実化している郷土館について、周辺施設を含めて検討する。

水道料金の値上げはいつか

環境水道課長 上水道の値上げ 来年度は困難



しもじま さとみ 美里



質問者の動画が見られます

問 水道料金の値上げの検討の進捗は。

環境水道課長 人口減少による料金収入の大幅減の傾向、資材、労務費の上昇傾向による支出増、各施設の更新需要等の課題対応のため、水道ビジョン等で上下水道料金を来年度に30%、令和12年度に30%の引き上げを提案している。

しかし、水道水については、最も欠かせない生活必需品の一つであること、物価高であること等、総合的に判断し、来年からの値上げは現実的に困難である。



財政調整基金

問 町民全体に届く継続的な支援として財政調整基金等を活用して水道料金の補助を実施してはどうか。

町長 交付金によるプレミアム商品券や米の配布を考えているが、水道料金といった生活費の補助は今のところ考えていない。

高校生への支援

問 いじめや家庭の事情、また、学びの多様化等により郡外へ学びの場を求める高校生が増えている。郡外の高校等へ通う高校生にもバスや電車にかかる通学費を支援してはどうか。

子育て教育課長 木曾郡内の高校への進学を促すという点もある中で、現状の助成制度を継続、持続的なものとしていくことが適切と考えている。

問 高校生はタブレットを自己負担しており、セキュリティソフト等を含めると10万円程かかっている。物価高騰が続く今こそ支援すべきではないか。

子育て教育課長 高校生の情報機器購入の支援は県で考えていたいただきたい。町は、児童生徒が義務教育で情報の教育、使い方、情報モラル等をしっかりと学んで高校へつなげていくことが役割と考えている。

木曾福島スキー場の今後は

観光商工課長 電気料や物価高騰で赤字決算



ひらい たけひら 平井 武平



質問者の動画が見られます

問 次世代に負の遺産を残さないことが重要だ。

今回は、木曾福島スキー場の現状と課題について伺いたい。

観光商工課長 昭和62年開場、スキーオンリーで定着してきた。昨シーズンは、目標のほぼ5万人を達成し収入が伸びたが、電気料や修繕費、物価高騰の影響を受け赤字決算となった。また令和6年度決算では、指定管理委託料1500万円と施設整備費4200万円を支出。今年度12月補正では緊急修繕として1200万円の要望がある。今後、企業努力をして赤字決算になるよう指導する。

問 スキー客の減少、機械や施設の修繕に多額の予算が必要。今後、町はどのようなスタンスで対応していくのか。指定管理者と監督する立場の行政が同じテールで将来に向け協議することが必要では。



物価高騰が経営を苦しめている木曾福島スキー場

食と環境

問 子どもたちの環境

町長 現状は、厳しい状況。冬の観光が大切であり、それなりの経済波及効果がある。大きな投資が必要になった場合検討する。また木曾町のスキー場としての思いも大切である。

子育て教育課長 日本では、適切に使用することで安全が確保できているが、国際的には懸念の声がある。身体的な影響については、適正な管理をして使用することが必要である。

問 対策として何を講じるか。温水除草機を試験的に採用してはどうか。

子育て教育課長 課題等を見極めたうえで検討したい。

町民主体の町づくり 機能果たしているか



てらうち けん 健
寺内



質問者の動画が見られます

企画財政課長 見直し中であり今後実行していく

問 町民主体の町づくりに地域協議会の仕組みが有効であるが、機能を果たしているか疑問である。見直す考えはあるか。

企画財政課長 現在見直しをすすめており、地域の代表者に検討していただいた。今後はいかに実行していくかが大事だと思う。

問 地域協議会を知らない方などがおり、周知不足と感じている。町としての広報の具体策はあるか。

企画財政課長 協議会の中で地域の方と情報発信についてお話をしながら、一つずつ確実に相互にやっていくことが大事だと思う。

副町長 行政がやると結果をお知らせする広報になりがち。加藤町

長の公約のもと、町の情報発信の専門部署を作る予定。協議会でも情報共有して発信してもらいたい。

避難所運営

問 避難所運営で何か考えていることはあるか。

危機管理室長 防災士と連携し訓練の実施を検討している。

問 備蓄品等の数の算定基準、物品選択の基準はどのようになっているか。また、数の達成率や目標値はあるか。

危機管理室長 町としての算定基準は、長野県地震防災対策強化アクションプランに基づいている。町としての備蓄数の基準は、50



避難所運営訓練の様子

0人で2日間3食分を提供できる3000食。物品選択の基準はない。

問 従来型の訓練ではなく、自主防災行動力を高めるための訓練を実施していくべきと考えるか。

危機管理室長 防災士の皆さんと連携し、住民を対象とした避難所運営訓練の実施を検討したい。

オーガニックで 町の未来へ投資を



めぐろ みどり 碧
目黒



質問者の動画が見られます

建設農林課長 農業関係者の会議でまずは意見を聞く

問 オーガニックビルド宣言の実施自治体は、農業の担い手確保や移住促進で成果を上げ始めている。町の調査状況は。課題把握から始めては。

建設農林課長 町としては具体的な取り組みは行っていない。まずどのような課題があるのか今後、農業関係者が集まる会議等の場で広く意見を聞く機会を設ける。

問 子どもの健康や環境保全のために、段階的にも有機農産物を給食に導入すべきではないか。調査・検討状況は。

子育て教育課長 調査はしていないが、子どもの健康増進、食育の推進、環境負荷の低減、

地域農業活性化を推進するとは理解している。給食委員会での検討が必要。地産地消を重視しており、町内で有機農産物を作っている農家が少ないため難しい。供給量や価格の課題を整理し、検討したい。



食を食べる
開田小の児童

食の多様性への対応

問 インバウンドや移住者をより受け入れるために、多様な食習慣や町の対応状況を調査すべきでは。また、町として対応する予定はあるか。

観光商工課長 町、商工会や観光局において

実態調査は行っていない。過去に商工会で食の多様性に関する講習会は実施しているが、事業者を確認する中で、各事業者でニーズを把握し対応いただいている現状であるため、現段階で対応する予定はない。

バスの利便性改善

問 路線変更後に不便の声をよく聞く。現状把握や評価はどうか。これを解消するため、広く声を拾う考えは。

環境水道課長 意見や要望書は届いている。苦渋の選択で、公共交通自体の存続を維持してきたという点でホッと

している。意見集約の方法や費用面について、年明けの郡協議会で検討を投げかける。

各課の重要課題解決の 進み具合は



まつい じゅんいち
松井 淳一



質問者の動画が見られます

企画財政課長 選択と集中を大切に進めている

問 9月会議において示された各課の課題は、持続可能な地域づくりのために優先的に解決しなければいけない課題が示されたと思う。それぞれの課題解決のためのアクションプラン策定や事業は順調に進んでいるか。

企画財政課長 財政の健全化について、現状は予算規模が大きく、これを10年後には90億程度にしていく必要がある。選択と集中が大切で新町長の政策も取り組みながら、さらなる健全化を進めていく。施設管理費の節減、各種補助金の整理、職員配置の見直しなどを進める。行政パフォーマンスを低下させないためのDX推進も進めていく。

保健福祉課長 医療分野、介護分野等々で人材の不足、専門職の確保と職員の資質向上が課題だが、解決のための必要な支援を得るため国、県への要望活動を続けていく。介護需要はこれからの数年は概ね現行で推移すると見込まれている。保険者である広域連合、6町村長と担当課、各介護事業者で作っている協議会などで連携し解決を図っていく。

観光商工課長 御嶽山麓の国定公園化、観光のエリアマネージメントを進めること、体験型滞在型観光への変換が課題だ。国定公園化は今年度末に指定される見込みで、活用についてはこれから具体的にしていきたい。エリアマネージメントを進めるため多くの知見を持つ人材や地域活動に精通した人材からなる地域コーディネーターチームを設置して進めていく。

問 人口減少下、少子高齢化が進む中で持続可能な自治体をいかに創造するか、そしてどんな将来像を描いているか聞きたい。

町長 人口減少、少子高齢化による町のスケールダウンがある中で「持続可能なまちづくり」がクローズアップされる。町としていかに小さくなりながら幸せになるかを考えて政策実現に取り組む。

木曾町DX推進施策の 現状は



ふじた まさひろ
藤田 昌弘



質問者の動画が見られます

総務課長 利用者の利便性向上を第一に考えたい

問 今年度の重要施策であるDX推進を進めるにあたって、どのような体制になっているか。

総務課長 令和3年度に各課からの推薦による22名でチームを発足した。自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性の向上や業務の効率化に取り組んできた。

問 今年度当初のDX推進については、どのような計画であったのか。

総務課長 本年度は行政事務の加速化、子育て教育の充実化、生涯学習推進、農林業成長化、産業促進分野等でDX推進事業を実施している。しかし、その計画としての位置づけ



書かない窓口の端末

木曾のような
静かな田舎大好き



ベルキーデー・
ブジュレンさん
(三岳)

作業場でアルストロメリアの選別作業に取り組んでいるのは、モンゴルウランバートル出身のブジュレンさんだ。木曾町三岳にある(有)グリーンサポートで働き始めてすでに7年になる。最初は技能実習生として3年間過ごし、その後、試験を経て「特定技能」の在留資格で再び来日し働いている。来日前はモンゴル刺しゅうの仕事をして10年余

り、自営で行っていた。「賑やかな街よりも静かな田舎が大好き」というブジュレンさん。



ブジュレンさんが
描いた猫の絵

「木曾は自分が思っていた通りの場所」と満足している。「周りの人がやさしいのも魅力」とほほ笑む。

来日前にはウランバートルの日本語学校で学び、来日後も千葉県内の学校に通って日本語力を磨いてきた。現在では、日常会話に不自由はない。

そんなブジュレンさんの趣味は色鉛筆で絵を描くこと。人物や動物、風景などなんでも描く人物は「顔が似

ていないといけないうで一番難しい」と話す。いつも好んで描いているのは猫。その作品は、まるで写真を見ているような緻密さで繊細だ。

去年10月、木曾文化公園で開かれた大学応援団フェスタの際には、ブジュレンさんが手がけた御嶽山の絵がリーフレットの表紙を飾った。将来は「画家になりたい」と夢が膨らむ。



アルストロメリアの選別作業をする
ブジュレンさん

議会を傍聴してみませんか

町議会では、議員がどのような発言をし、どんな思いでまちづくりを考えているのかを、直接聞くことができます。

議会は原則として毎月開催されており(通年議会)、議員が町政について質問や提案を行う「一般質問」は、3月・6月・9月・12月の年4回行われます。

ぜひ皆さんも、議会を傍聴してみませんか。

次回の一般質問

日時：3月9日(月)予定

傍聴の方法など、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 電話 22-4288

表紙の写真 12人で木曾町議会がスタート!

11月16日に行われた町議会議員一般選挙により、12人の議員が決まり、その半数が新人議員となりました。新たな体制で木曾町議会がスタートしています。



議会全員協議会の様子

写真は、12月会議最終日に全議員で撮影した記念写真です。

町村合併から20年が経ち、当時約13,900人だった町の人口は現在約9,700人となりました。少子化による人口減少は大きな課題ですが、議員一同力を合わせ、町の未来のために取り組んでまいります。

編集後記

新たなメンバーで広報委員会がスタートしました。選挙直後の12月議会から、休む間もなく議会だよりの制作が始まり、大晦日も元旦も手探りで原稿に向き合っていました。前委員長の支えにより、まずは無事に一冊を完成させることができ、安堵しております。これから、町民の皆様議会をより身近に感じていただける誌面づくりに努めます。議会だよりについてご意見・ご感想があればぜひ議会事務局にご連絡ください。どうぞよろしく願っています。(目黒 碧)

議会広報特別委員会

- 委員長 目黒 碧
- 副委員長 下條 広行
- 委員 原田 徹哉
- 委員 寺内 健
- 委員 児野光九仁
- 委員 征矢野隆夫